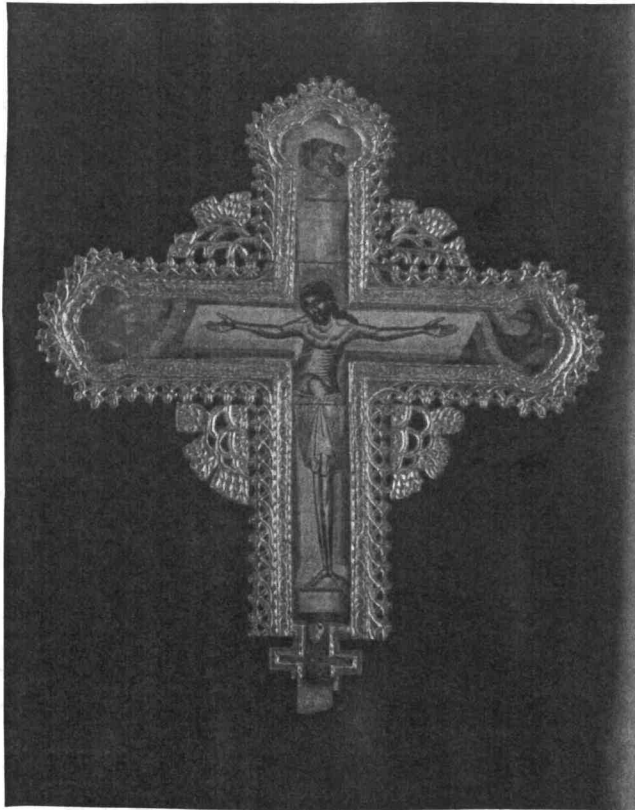


2009年(平成21)2月

カルメル  
**霊性センターニュース**



**240号**

# DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳——

## 第一巻

### 第 10 章 むだな言葉を避ける

#### 1 だまっているほうがよい

できるだけ、他人との騒々しいつきあいを避けよう。よい意向があるにしても、あまり世間の問題にたずさわるのは、心を騒がせるもとだからである。そしてすぐさま私たちは、世間の虚栄に汚されてその奴隷になってしまうのである。私はさまざまな機会にだまっていればよかった、人とつきあわなければよかったとってしまう。

話をした後で、良心を汚さなかったと感じることはめったにないのに、なぜ私たちはこれほどまでも話したりつきあったりするのであろうか？（箴言 10・19 参照）。私達がこれほど喜んで話し合うのは、そのつきあいによって互いに慰め合い、日々のわずらいに疲れた心を憩わせたいからである。そして私たちは、自分の好きなこと、望んでいること、またその望みに沿わない事柄について、好んで話したり、考えたりするものである。

#### 2 よい話と悪い話

しかし残念ながら、それを求めてもむだであった、効果がなかったと感じることが多い。外部からのそうした慰めは、神からの内部的な慰めを少なからず損うからである。時をむだに費やさないように、警戒して祈らなければならない（マタイ 26・41 参照）。話すゆるしが出た場合や、話すほうがよい場合には、靈魂に益となる事柄について話さない。悪い習慣と、完徳への進歩を怠ることが、私たちを饒舌に引きずりこむ理由の一つである。それにひきかえ、靈的なことについての敬虔な話し合いは、私たちの靈的進歩に役立つものである。神において、同じ心で信心をおこなおうとする人々とのつきあいに恵まれる場合は、特にそうである（使徒言行録 4・32 参照）

心の泉





## 聖霊の友

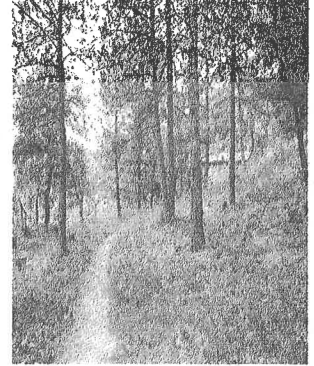
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd - 2 -

道が 険しい

のぼり道に なったからといって

道に迷ったわけではありません

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd



新しい年となりました。新しい道を歩み始める人、今までの道を新たな気持ちで歩み続ける人・・・それぞれ思いをこめて歩むこの新しい年の日々が十字架の聖ヨハネの「愛の山頂」を目指す道のりでありますように。マリー・エウジェンヌ神父は「道が険しいのぼり道になったからといって道に迷ったわけではない」と励ましてくれます。私たちはとかく「神さまと一緒にいてくださるならすべてはうまくいく」と思い込みがちです。神さまは必ずしも困難や障害物を先回りして取り除いてはくさいません。道はいつそう険しくなり、時として急なぼり道にもなります。こんなはずではなかったとおもうとき、「道に迷ったわけではない」ことを思い起こしましょう。

神への信頼は 神から応えを引き出します。

神から応えを引き出すとは・・・きびしい状況の中でも神に信頼するとき神の慈しみの愛は揺さぶられ、神はその愛を注いでくださるのです。きびしい状況自体は変わることがなくても・・・。

私たちのどのような苦しみ、また必要にもキリストは無関心ではありません。

私たちは神さまがすぐに手をかしてくださらないと駄々っ子のように「見捨てられた」とすぐ思い込んでしまいます。私たちのどんな苦しみにもキリストは関心をもってくださることを信頼したいものです。

イエスは船の中で時々眠り込む権利があります・・・でも寝ていながらも必ず必要な時には、私といっしょに状況を改善するために介入されます。

伊従 信子  
ノートルダム・ド・ヴィ

## 『必要なことは、ただ一つだけ』(43)

ルドルフ・デ・スーザ OCD (カルメル会)

ある栄養士によれば、過食や不規則な食習慣は、祈りにも害を及ぼすということです。何でもやりすぎてはなりません。すべての喜びは、神へと高められるべきなのです。それは自動的に、神へと方向づけられた体験となるか、少なくとも祈りのためにより準備となります。私たちが幸せで満足している時、神はあがめられ、たたえられているのです。神の栄光は、人間が十全に生きることです。聖ユダは、神の恵みの乱用を警告しています。「こういう者たちは、厚かましく食事に割り込み、あなたがたの親ぼくの食事を汚すしみのようです。彼らは自分自身のことだけ考えています」(ユダ 12)。彼らは自分にこう言います。「食らえ、飲め、明日は死ぬのだから」(イザ 22:13)と。動物は決して食べすぎません。あなたは、煙草を吸っている動物を見たことはないでしょう。彼らは、自然が提供するもので満足しているのです。私たちは人生における良いものを少しも味わいません。むしろ、どういふわけでしょうか、人生を味わうために、アルコールや煙草など、刺激物を必要としているのです。人生における良いものに出会うと、私たちはそれらのことで頭が一杯になります。それらのものを単純に味わうことができません。私たちは自分の考えや理想に夢中になるからです。多分、人生を味わう最善の道は、スピードを落とすことです。スピードを落とすことは、私たちを生き生きとさせ、私たちに人生を味わわせてくれるのです。

私たちの舌を訓練することは、祈るための前提条件です。「人の口からは、心にあふれていることが出てくるのである」(マタ 12:34)。私たちが言葉をコントロールしないならば、私たちの祈りはきわめてしばしば浅く、深みのないものとなることでしょう。この点で、聖ヤコブは私たちの舌をあわれみのない心で使わないよう、警告しています。

自分は信心深い者だと思っても、舌を制することができず、自分の心を欺くならば、そのような人の信心は無意味です。(ヤコ 1:26)

真剣な心で祈るためには、聖パウロの助言を真面目に受け取る必要があります。

悪い言葉を一切口にしてはなりません。ただ、聞く人に恵みが与えられるよう

に、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい。… 無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしりなどすべてを、一切の悪意と一緒に捨てなさい。(エフェ 4 : 29-31)

「自分の庭をきれいに保とうとする者は、雑草対策を延期することはない」とは、ダグ・ハマーショルドの言葉です。

## 訓練

祈りの間、私たちは舌に注意を集中し、緊張の危機を克服することができます。ここにあげる訓練は、リラックスするために、少なくとも祈りの始めにおいて大いに役立ちます。(訳注：以下は、Robert Masters & Jean Huston, *Listening to the Body*, Dell Publishing Co., New York 1978, pp.138-139 からの引用)

舌が異常な緊張から自由であるならば、その先が歯の裏側にほんのわずか触れながら、口の中でリラックスして横になっています。あなたの舌やその全表面を、できる限りくわしく調べてみてください。口蓋と口床との間にある舌の位置を知覚してください。舌が前歯に触れるかどうか確かめてください。舌は左の頬に、あるいは右の頬に近づいていますか、それとも真ん中にありますか。舌の底、上、広さ、長さ、厚さを感じてください。舌の緊張に気づいているかどうか、それを確かめると変化するように思われるかどうかみてください。より広く、あるいはより大きくなっていますか。舌にもっと完全に注意するにつれて、あなたは口の内部にもっと注意するようになっていますか。

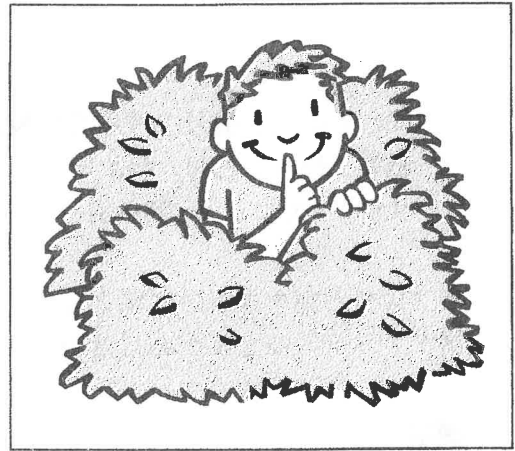
それでは、数秒、あなたの舌の先を下歯の内側にすべらしてください。左から右へ、右から左へ、できる限り動かしてください。それから、少しばかり、舌を下歯の上に、また上歯の先に、また下歯の内側に、できるかぎり左へ、できる限り右へすべらしてください。

次に舌を、できるかぎり左から右へ、歯と上唇の間の、上歯の外側にすべらせてください。歯と下唇の間の舌を動かすことで、同じことを下歯でも行ってください。次に舌を口蓋に押しつけてください。力をぬいて、ゆっくり休めます。舌に対する注意をはっきりと保ち、今感じていることを記憶しておくようにしてください。(続く)

(九里 彰訳)

# ヘンリ・ナーウエンの

## 旅路の糧 (118)



### 隠れた偉大さ

私たちの社会では、知名度や名声に力点が置かれています。新聞やテレビは私たちに次のようなメッセージを送り続けています。すなわち、作家であろうと、俳優であろうと、音楽家であろうと、政治家であろうと、大切なことは、人に知られ、ほめられ、賞賛されることであると。

しかし、ほんとうの偉大さは、しばしば隠れていて、謙遜で、単純で、慎み深いものです。公けに評価されないのに、自分自身や自分の行動を信じることは、やさしいことではありません。深い謙遜と結びついた強い自信をもたなくてはなりません。もっとも偉大な芸術作品やもっとも重要な平和の仕事のいくつかは、スポットライトをあびることなどどうでもよい人々によって創り出されました。彼らは、自分がしていることが彼らの使命であることを知っていました。それで彼らは、その活動を偉大な忍耐と堅忍と愛をもって行なったのです。

(0225)

### 隠れることは、親密さの場

隠れることは、霊的生活の本質的な特性です。孤独、沈黙、日常の仕事、大きな課題なしに人々と一緒にいること、寝ること、食べること、働くこと、遊ぶことなどなど、他の人々と何ら変わらないこれらすべてのこと、それはイエスが生きた生活であり、イエスが私たちに生きるよう求めておられる生活です。隠れることによって、私たちは、イエスのように、「知恵において、背丈において、神と人ともに愛されることにおいて」(ルカ 2:52) 成長することができるのです。隠れることによって、私たちは神とのまことの親密さと、人々へのまことの愛を見出すことができるのです。

イエスは、その活動的な宣教活動の間でも、一人だけになって神と共にいるために、隠れた場所へとまどり続けました。私たちが神との隠れた生活を持たないならば、神のために行う私たちの公けの生活も実を結ぶことはないでしょう。

(0813)

九里 彰訳



年間第四主日 マルコ 1, 21-28

「人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである」(マルコ 1, 22)。

「イエスは、安息日に会堂に入って教え始められた。人々はその教えに非常に驚いた」。何を教えられたかは触れられていません。「律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである」。確かに、律法学者のように他から学んだ知識の受け売りではなく、御自分の中から溢れ出てくるものであったのでしよう。

さて、「マルコによる福音」では、「教える」との動詞は、イエスにだけ、そして、いつも継続、反復行為を表す「未完了過去」で使用されています。ですから、イエスだけが真実に権威を持って教えることができる何かがある、また、ナザレの会堂でイエスは教えた過去のある時点で完了した事実を報告するのではなく、教え始められ、死に至るまで言葉と行いで教え続けられた、しかも、死で終わってはいない、イエスは、復活者として世の終わりに至るまで、時間、場所を超越して一人ひとりに教え続けておられる、これを「マルコによる福音」は言いたいのです。その原型であり出発点が、約2千年前、ユダヤの地で教え、また癒しの奇跡を実行なさるイエスであった、そして、同じイエスが今わたしたちに同じように働きかけていることに気づくこと、これが重要なのです。イエスだけが教えることができ、今も教え続けておられること、それは、「神の国」の秘密に他なりません(参照マルコ 4, 11)。

イエスの教えに対する人間の反射的反応は、誤解と反発であるようです。「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ」と、汚れた霊に取り付かれた男は叫んでいます。今日、わたしたちに出会いに来られるイエスの正体、それは、十字架の上で死に、復活し、今も生きておられる方です。「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ 1, 15)と、古い人間に死に、新しい復活の命に過ぎ越すようにと招く、権威ある方なのです。しかし、イエスの教え、神の国の秘密は、罪にある人間には、「滅ぼしに来た」としか感知できず、必死になって抵抗し、拒絶している、これが現実かもしれません。この時こそ、汚れた霊への宣告、「黙れ。この人から出て行け」との解放と赦しの言葉をいただけるまで、イエスの前に留まり続けたいものです。

ルカ渡辺幹夫

年間 第5主日 (B)

「そして、彼女は彼らをもてなした」

(マルコ 1 : 20 - 39)

「そして、彼女は彼らをもてなした」(マルコ 1 : 31)。これは、シモンのしゅうとめの回復の物語の中で小さな、それほど重要ではない部分です。イエス様はシモンの家へ行き、熱を出したシモンのしゅうとめを治します。イエス様の思いやりのある来訪と病気を治す力を経験して、シモンのしゅうとめは彼らをもてなしました。イエス様の力を経験し、治され、すっかり回復し、病気から解放され、もてなしをすることを通して、再び共同体を築きあげる仕事に参加することになります。

「仕えること」はキリスト者の生活の重要なプログラムです。これは、行動を通して愛することです。主ご自身「仕えられるためではなく、仕えるために、そして多くの人のあがないとして自分の命を与えるために」この世に来られたのです(マルコ 10 : 45)。本日の福音の中で、イエス様はいろいろな所に行き、よい知らせを説き、多くの人たちに所有物からの癒しと解放をもたらしました。イエス様は、忙しく人々に仕え、ご自分の命、愛、力を分け与えられました。最後の晩餐のとき、弟子たちの足を洗うことで、仕えることの最も素晴らしいお手本を示されました。これは当時は奴隷の仕事だったのです。十字架上で「多くの人のあがないとしてご自分の命を与えられた」とき、愛と奉仕の最高の行ないを身をもって示されました。「あなたがたのうちでいちばん偉い人は、みんなに仕えるものとなりなさい」と教えられました(マタイ 23 : 11)。

イエスとパウロの後の多くの人々が、自分たちキリスト者のプログラムとして奉仕の道続けました。ヴィンセント・ド・パウロのような聖人たち、モロカイ島のダミアン、カルカッタのマザー・テレサなどは、このことを証しするごく少数の人たちです。行動による愛である社会奉仕は、教会の福音化の本質的な手段です。貧しく、困っている人たちに仕えるとき、私たちはキリストご自身にお仕えするのです。また、奉仕は最後の日の裁きの唯一の基準です。「わたしの兄弟の最も小さな者にしたことは何でも、わたしにしたのである」(マタイ 25 : 40)。

社会奉仕は特定の修道会や社会団体だけのものではありません。キリストの全ての弟子の欠くことのできない部分です。洗礼、堅信、聖体、ゆるしの秘跡は、全て癒しと健全さをもたらす奇跡です。これは私たちが奉仕の道に従っていく理由に充分ではありませんか。私自身の家族や近所の人たちの中で、きょう私の手助けを必要としているのは誰でしょうか。どのようにしたら困窮している人たちに手をさしのべることができるでしょうか。

(Sr. Paulina)

「イエスが、深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ」(マルコ 1, 41)。

重い皮膚病を患っている人、このような人物は、神から呪われ、神の契約の祝福から排除された者とされ、典礼集会、社会生活にも参加を禁じられていました。こうして、重い皮膚病を患っている人は、神との愛の交わり、隣人との愛の出会いから遠ざけられ、一人で孤独の内に自分の人生、病の重荷を背負って行かざる得ない状況に放置されていました。

重い皮膚病を患っている人が、イエスの前に出てひざまずきます。実は、これさえも、モーセの律法を犯す行為でした(レビ 13, 45)。しかし、イエスには、このような律法をも越えた行動を誘発させる何かが、律法に超える権威があったのででしょう。この人は、イエスの前に出て、自分の心からの願いを謙虚に、真剣に述べます。「御心ならば、私を清くすることができます。」「してください」と自分の願望に応えることを強要するのではなく、イエスの御心にすべてを委ね、信頼と同時に、自分には資格も、権利もないことを自覚した態度です。

イエスは、「深く憐れんで、手をさしのべてその人に触れ」。「深く憐れむ」は、神、あるいはイエスだけに適応される言葉であり、痛む愛、相手の痛みを自分のものとして身に受ける、共に痛み苦しむ愛です。また、ある古い写本は、この言葉に代えて「憤り」としています。それで、この「深く憐れむ」は、イエスの痛むほどの憤りをも含むと解することができます。すべての人が兄弟として生きることを望まれる神の御旨に逆らう状況を造りだす病への憤り、また、律法を盾に、このような人を疎外している人間たちへの憤りです。

イエスは、遠隔から言葉で望みを現し、奇跡を実行するのではなく、積極的に手を伸ばし、触れて行きます。この手は、いつの日か、十字架の上に伸ばされ、釘付けられ、傷付けられ、人間のもっとも深い傷、愛に生ききれない罪の傷に触れ、癒す手になるのです。今日、同じ手が、わたしたちに触れてきます、傷を癒し、新しい命に立ち上がらせるために。このイエスの前に、ひざまずき、謙虚に、真剣に、わたしたちのあるがままの姿を告白できますように。 ルカ 渡辺幹夫

## 年間第7主日

“子よ、あなたの罪は赦される” (マルコ2:1-12)

みなさんは赦しと和解がもたらす癒しの力をご存知ですか。イエスの、罪びとに対する思いと態度は当時の宗教家たちの考えを根底から覆しました。足の萎えた男の人が信仰を持った友人たちによってイエスのところに運ばれてきた時、イエスは考えられないことをなさいました。イエスは先ずその人の罪をお赦しになったのです。ここに生きている神の憐れみがあります。ここに信仰の報いがあります。“イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。”(マルコ2:5) 信仰は神の恵みをもたらします。その恵みはその人の心を神に向かわせる前に、その心をこの世の被造物への執着から解放します。というのは人の罪を清めると言うことは、人に、神以外のものに対しての乱れた、行き過ぎの行為を彼自身が避けるための強さと力と恵みを与えることだからです。

人々はイエスのなされたことを神への不謹慎な行為と見做しました。人の罪を赦し、その罪の重荷から解くことが出来るのは神だけであることを知っていたからです。イエスは神だけが正しく行使出来る権限を主張されました。イエスはこの権限が神からのものであることを証しされただけではなく、この足の萎えた人の体の病を癒すことによって神の、失ったものを回復させる愛と慈しみの大きな力を示されました。この人は体だけでなくその心も同様に病気でした。イエスは彼を罪の重荷から解放し、その体も癒されたのです。神である主は、常に、私たちの魂と体と精神の病を癒そうとしておられます。そのようなイエスから離れることができますか？

三世紀の教父である聖クレメンスは次のように述べています。“デモクリトスによると医師の治療はからだの病気を癒す。知識はその妄想、悩みから魂を解放する。しかし善き導き手である知恵、人の肉を取られた御父のみことばはその御手による被造物のすべての傾きに対処してくださる。人類のこの上なく完全な医師である救い主は、からだを魂を連帯して癒される。「立ちなさい」イエスは中風の人に命じられた。「床を担いで家に帰りなさい」直ちにこの人は力を受けた。” 真の信頼に満ちた信仰をもって、体と精神と魂の健康を主に委ねようではありませんか？

(Sr. Paulina)

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (22)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 十字架のヨハネ、笑い話をしてください

彼の人間性は、次のような証言の中にはっきりと表れています。

彼の愛徳は非常に大きなもので、特に病人や助けを多く必要としている人々に対してそうでした。彼自身が彼らのところへ行って食べさせ、彼らを喜ばせるために物語り、笑い話をしました。それらの話は、この世の話であっても、無益なものではなく、大いに役立つもので、病人を喜ばせ、気分をやわらげたのです。こうして彼は、遠慮なしに彼に話を頼むよう私たちに告げました。話はとても慎みのあるもので、箴言はとても鋭いものでしたが、この世の出来事について彼がいろいろ話をしたことは、私たちをつまずかせるようなことはなかったからです。

物語を語ったり、笑い話をしたりする十字架の聖ヨハネを、だれが想像できるでしょうか。彼の著作の中に垣間見られ、確認できるように、彼は、絶えずユーモアの点で、彼の才能をみがぐために大きな努力する必要はなかったのです。



(続く)

## …ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 20. 福者 三位一体のエリザベット (1880-1906) — その2

エリザベット・カテーは、1880年フランスのアヴォールに生まれた。軍人であった父は、彼女が7歳の時に亡くなった。妹のギットとは大変仲がよく、母は二人にとって大変親しい存在であった。7歳の時、エリザベットは修道女になりたいと友人に打ち明けている。早熟な子どもで、かんしゃくを起こしやすい性質であったが、初聖体を受けてからは非常に穏やかになった。名ピアニストでもあり、また中流階級であった彼女の家族はパーティーや社交的な行事にもよく参加した。1891年に初聖体を受けたときから、彼女は「神に生涯を献げ、神の偉大な愛にいくらかなりともお返ししたい」と望むようになり、13歳のとき、貞潔の誓願を立て、イエスに身を捧げた。エリザベットの心はイエスにとらえられ、彼のこゝし考えられなかった。21歳の誕生日に、家から近いディジョンのカルメル会に入会する母の許しを得ることができた。エリザベットは手紙の中で、カルメル会にいることの深い喜びを度々表している。あらゆるものが、彼女を三位一体へと導いた。彼女は、無条件に「三位であるお方」に身をささげ、神はそれをお受けになったのである。カルメル入会後間もなく、エリザベットは病気になり、胃疾患(現在では、アジソン病であったと考えられている)のため5年間苦しむこととなる。彼女の苦しみは、霊的にも身体的にも激しいものであったが、この苦しみによって彼女のイエスに対する愛と、彼にこの苦しみを捧げたいという望みは増していった。

彼女が書き残したのものの中には、聖パウロの言葉が多く見られる。自分の召命について、彼女は「花嫁であること、カルメルの花嫁であること」とは、エリヤの燃える心と聖テレジアの刺し貫かれた心を持つこと、「神のご光栄のために熱情を傾けている」がゆえに神の「まことの花嫁」であることであると語っている。福者三位一体のエリザベットは、祈りの真の深みを生きた神秘家であり、イエスを愛しぬいた愛人であり、カルメルにおいても家庭においても、姉妹たちにとって真の友人であった。彼女は自分のことを「Laudem Gloriam(栄光の賛美)」であると言っていた。1906年11月9日に帰天。最後のことは、「私は、光、愛、いのちへ行きます」であった。



福者 三位一体のエリザベット  
(18歳)

— 祈り —

私の生涯が、絶え間ない祈りとなり、長い一つの愛の行いとなりますように。何ものも、どんな騒音も、どんな気晴らしも、どんなことも、私をあなたから引き離すことがありませんように。おお、私の主よ、私は沈黙のうちにあなたと共に生きることを、どれほど愛していることでしょうか。けれども、何にも増して私が愛するのは、あなたのみ旨を行うことです。そして、あなたは、私がまだ世間にとどまることをお望みになるのですから、私は、あなたの愛のために、心を尽くして、従います。私の心の修室をあなたにお捧げします。どうか、私の心をあなたの小さなベタニアとし、そこに来てお休みになってください。私は、そのようにして、あなたをお愛しいいたします。

(1900年1月23日のメモより)

おお、何と素晴らしいことでしょうか  
沈黙のうちに、何度も何度も、あのお方に聴き入ること、  
そのご現存の平和を楽しむこと、  
その愛に全く明け渡すことは。

おお、清く柔和な小羊よ、  
あなたは私のすべて、私の唯一のお方。  
あなたは、あなたの小さなフィアンセが  
あなたに激しく飢えていることを、よくご存じです。

彼女は、主を糧とすることに飢えています。  
何よりも、主によって焼き尽くされることに飢えています。  
存在のすべてを主に明け渡し、  
完全に主に取り去られることに飢えているのです。

おお、私が全くあなたのものとなりますように。  
あなたによってのみ生きる者、  
あなたのもの、あなたの生けるホスチアとなり、  
十字架上のあなたに焼き尽くされますように。

(1901年12月25日、詩75)

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列17:3-4)」ということばに由来しています。

(聖車カルメル会訳・編)

## 心の顕微鏡

お告げのフランシスコ姉妹会 Sr.熊田 照子

私はうちの会の幼稚園で、園児の、あるいは卒園生のお母さま方の宗教クラスと心理学的クラス（といっても心理学というような学問的用語は知らせていません。1例として“愛情を生きる”など）を7クラスもっています。長年続けてきたわけですが、最近、しみじみ感じることは、“この2つの種類の勉強（宗教と心理学）は、結局は1つになってしまうのだ”ということが体全体で分かってきたように思うのです。つまり、何でもそうですが、“ホンモノ”というのは、どこまで切って切って切りまくっても、心の一番奥にあって、そこがすべての行動の発信の基になっている ということなのです。（頭から入る知識ばかりではなくて）。これをお母さんたちに当てはめて見るならば、話を聞いている時だけ“ああ、自分はそのようにはやっていない。悪いことをしたなあ”式に自分を責めるのでしょうか、その割りに自分が変わらず、また繰り返しが始まります。つまりそのお母さんは悪い人ではなくて“心の顕微鏡”に「ほこり」（知識とか常識という）がついているので、一生懸命とはいうものの、ありきたりの教育論で知ったことをそのまま振りかざしているだけで、それはそれ、心はけなげとはいえ、ただ常識的教育論を、自分自身とこどもに振りかざしているだけなのです。ですから子どもに言って聞かせる前の、自分ひとりの時、（というのは、自分一人でない場合はとに角、どうしても自分より先に相手を見てしまうのが普通ですから）つまり“私の心は今怒っているかな。いや心は平静だけど……”などと客観的に自分を見ることが出来るのでしょうか？ これはなかなか難づかしいことです。つまり頭に入ってしまった教育や常識論が先に出て、それが口をついて外へ飛び出し、自分の子どもに当たるのです。頻度が少ないならまだしも、“よくしたい”という善意の塊のウチにこれが出たら、当たった子どもはたまったものではない、言うことを聞くより、逆に反対のことをするでしょう。つまり意識にはないけれど、“小さなアダ打ち”をするのです。これでは子どもを矯正するどころか、無意識のウチに闘争心を養ってしまいます。このことは大人同士にも適応できる場合があります。ではどうしたらいいのでしょうか。たとえそんな場面でなくていいのですが、自分の心を、心の顕微鏡で見るということなのです。例えば“今は怒っているのだ”とあれば、その理由は自分で分かるはずです。そうしたら、なるべく自分の心を“晴れ”にするために何かをしたり、見たり、歩いたりして自分を楽ませることです。モノの大小にもよりますが、自分の心が“晴れ”になるのが一番なのですから、常識はづれは別として、次はの活性剤となります。そこまで自分の心の中が細かく見えてきたら、きっと世のなかが変わりますよ！！





「HOLY LOURDES」(ホーリー・ルルド)  
菅井 日人 (中央出版社：現 サンパウロ)  
より

「褒める」という言葉を辞書でひくと、優れていると認める、祝福する、評価し良しとしてその気持ちを表す、讃える、というようにあります。

4歳の時に「ほんとうに可愛いお利巧な坊ちゃんですね」と人から云われたことを、50年経っても忘れずにいて、忘れないどころかその言葉は50年間何かにつけての支えとなっているという話をききました。思わず笑ってしまう微笑ましい話ではありますが、しかし、笑うだけでは済まされないこれは何かとてもすごい事のように思えたのです。

どのような状況で、どのような思いで、どのくらい気持ちを込めて放たれた褒め言葉だったのでしょうか。興味深いことです。

褒められるということは、その人の特筆すべき要素が、決してお世辞のような必要以上にでもなく、また必要以下にでもなく、あるがままそのままに認められ、肯定され、よろこびをもって受け入れられることだと思います。

巷間を見まわせば、褒めるという言葉は意外に馴染み深く沢山あるようです。育児や教育に関連しては、褒めて育てるということが盛んに推奨されます。また、「自分で自分を褒めたい」という或るマラソンランナーの科白は人々に大いに歓迎されました。確かに小さな子どもが褒められた時に見せる明るい柔らかい笑顔は、褒めた側をも暖かくさせ幸せにします。目標を目指して、身も心も没頭して努力し、命を燃やした者が発する自分を褒めたいという言葉は、共感と感動を誘うのです。

何はともあれ褒める、褒められることは、人生における栄養素のひとつともいべきものになり得るのかもしれませんが。

唐突な話になりますが、神さまは6日間をかけて天と地を創造されました。光も、海も、樹木も、昼も、夜も、鳥も、動物も、・・・すべて創造されるその都度に、それらをご覧になってよしとされています。人を創造されたときには、祝福されたとあります。ご自分で創造されたものを、はなはだよいと仰せになり、満足なさってご自分をお褒めになっておられるのです。

これは被造物冥利に尽きる出来事だと心からうれしく思います。よしとされる方もよしとする方も双方がこの上ない幸福を感じている筈です。心底からよろこびがこみ上げる聖書のこの冒頭が、私は大好きです。

続いてまた、さまざまな議論を呼び起こしたりもするマルタとマリア姉妹の挿話を考えるのですが、来客として家に入られたイエズスを、マルタは如何に

おもてなししようかと気を配り立ち働きます。一方マリアはイエズスの足元に座ったまま動きません。お話を聴き入っているのです。「わたしがこんなに忙しくしているのに マリアは手伝いもせず座ったままです！」マルタのこの気持ちは誰しも理解し共感するところです。しかし、イエズスはマリアの方をよしとされます。

思うのです。マリア自身は、イエズスからマルタでなく自分の方をよしとされた事など、恐らく気がつきもしなかったでしょう。「マリアはよい方を選んでる」と褒められたことなど思いもよらなかったのではないのでしょうか。

後日、マリアはマルタに「ごめんなさい」と云うのでしょうか。

云わないのでしょうか。

さて、厚顔無恥ということになるのですが、次に私自身が褒めて貰ったことに少し触れたいと思います。こどもの頃から人に褒められるようなことは殆どありませんでしたが、心に残るといえるのは数年前、10年以上も汗と涙を共にして、一緒に仕事をしてきたボランティア仲間が「白状するけど俺実はカクレイシハラなんだ」と云ったこと。え？ カクレ？ 何？ 一瞬ボカンとしました。その時 傍にいた先輩が「すごい褒め言葉貰ったじゃないか」と顔を輝かせて保証してくれたこと。

実際には何を褒められたのか具体的にはわからないのですが、ただ、その時その場に満ちた愛情深い暖かさは、いまでも私を包み、言葉は徐々に身に刻まれています。この頃では（何故カクレ？）と訝しく思いつつも、この日のことは勿体ないような、天の賜物のように感じられています。

50年も忘れずにいて貰えるような褒め言葉を人に与えることは、考えてみればそれ程簡単なことではないようです。そうであればこそ私も語りかけてみたいものです。相手のそれを認め、よしとし、祝福し、讃え、その気持ちを表したいものです。

50年前の「ほんとうに可愛いお利巧な坊ちゃん」は、私にこんなことを思わせませぬ。

# いのちの言葉 1月

多くの部分があっても、一つの体なのです。(一コリント 12・20)

あなたは、真のキリスト者共同体に出会ったことがありますか。その集まりに参加したり、彼らの生き方をよく知る機会を持ったりされましたか。だとすれば、その共同体に属する人々は、次のような多くの働きを持つことに気づかれたでしょう。

話す賜物に恵まれ、聞く人の魂に触れる霊的な話ができる人。人々を助け、世話をし、必要なものを調達する賜物を持ち、苦しむ人のためにすばらしい働きができる人。豊かな知恵をもって教え、相手の信仰をいっそう強めて、新たにできる人。物事の計画や準備にたけている人。上に立つのに向いている人。相手を理解し、困っている人を慰めることができる人、などです。

生き生きしたキリスト者共同体には、こうしたすべての働きが見られますが、私たちが特に心を打たれるのは、すべての人が唯一の霊によって導かれ、皆の間に一致の雰囲気があることでしょう。

多くの部分があっても、一つの体なのです。

聖パウロも、いくつかの大変活気あるキリスト者共同体に出会いました。それらは、まさに彼が神のみ言葉を伝えたところから生まれたものでした。

築かれて日の浅いコリントの教会もその一つで、聖霊はこの共同体に、ご自分の賜物、いわゆるカリスマを豊かに注がれました。当時の初代教会には特別な使命がゆだねられており、コリントの共同体には、聖霊のすぐれた賜物が見られました。

しかし、こうした賜物によるすばらしい経験をしたにもかかわらず、共同体の中では、恵みを受けた人々の間で対立や混乱が生じました。そこで彼らは、当時エフェソにいたパ

ウロに、問題の究明を願ったのです。

パウロは、一つのすばらしい書簡の中で、確信に満ちた答えを与え、聖霊の特別な恵みがどう用いられるべきか、説明しました。

彼は言っています。使徒や預言者や教師の賜物など、カリスマや務めは様々でも、それらの源である主はただお一人だ、と。共同体の中では、奇跡を行う人、病気をいやす力のある人、困っている人々の援助に特にすぐれた人、上に立って人々を指導するのにだけた人、異言を語る人、それを解釈する力が与えられている人、など様々でも、神は唯一でおられ、この神からすべての賜物が生まれるのだ、と。

様々な賜物は、同じ聖霊から来るもので、聖霊が自由に人々に注がれるものです。ですから、賜物の間には調和があり、互いに補い合うのが本来の姿であって、個人の満足、虚栄心や自己主張のためではなく、共同体の建設という共通目的のために使われる必要があります。聖霊の賜物は、奉仕のために与えられるものですから、対立や混乱の原因になってはならないのです。

パウロは、共同体の生活に関わる特別な賜物について考えながら、各人の才能は皆の益のために活用されるべきで、各自が自分の持っているもので満足すべきだ、と考えています。

彼は、共同体を一つの体にたとえ、次のように問いかけています。「もし体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし全体が耳だったら、どこでおいをかぎますか。そこで神はご自分の望みのままに、体に一つ一つの部分を置かれたのです。すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう」<sup>1</sup>と。

<sup>1</sup>一コリント 12・17-19 参照

## 多くの部分があっても、一つの体なのです。

私たちはそれぞれ異なっているからこそ、互いに他の人に対して贈り物になることができます。それによって、本当の自分自身でいられ、他の人との関係の中で、自分に対する神のご計画を実現できるのです。

パウロは、様々な賜物の働く共同体の中に一つの現実を認め、これに「キリスト」というすばらしい名を与えました。キリスト者によって構成される独自の体は、本当にキリストの体です。実際キリストは、ご自分の教会の中で生き続けておられ、教会はキリストの体なのです。洗礼の時、人は聖霊によってキリストの内に招き入れられ、共同体の一員となります。共同体の中では皆がキリストであり、すべての分裂は消え去り、あらゆる差別は乗り越えられます。

## 多くの部分があっても、一つの体なのです。

もしキリスト者共同体が一つの体であり、メンバーの間で、違いと多様性を持つ一致が実現されるなら、彼らは、自分たちの新しい生き方をよく実践していると言えます。この共同体は、「命のない物質のかたまり」のようなものではなく、「様々な部分を持つ命ある体」に似ています。

キリスト者にとって、分裂を引き起こすのは、自らの務めに反することです。

## 多くの部分があっても、一つの体なのです。

では、今月のみ言葉を、どのように生きることができのでしょうか。

私たちは、キリスト者共同体の内にある様々な働き、賜物や能力に対して、深い敬意を抱く必要があります。

そして、教会が持っているあらゆる豊かさにまで、私たちの心を広げることが必要でしょう。自分の小教区や所属する教会グループ、会員になっている教会の団体など、「小さな教会」に限らず、多くの様々な形で表現される「普遍教会」にまで、心を広げることです。

私たちも、教会という唯一の体の一部なので、そのすべてを自分のものだと感じ

る必要があるでしょう。

自分の体のどんな部分でも大切に扱うのと同様、教会という霊的体を構成しているすべての人を、大切にしましょう。

皆に対して尊敬心を持ち、誰もが教会のためにできる限りのことが果たせるよう、助けましょう。

また、日々の仕事が単調で、あまり意味がないように思えても、各々置かれた場所で、神が果たすようお望みになることを、なおざりにしないようにしましょう。私たちは皆、一つの同じ体に属しています。各々が、その体の一部分として、神から準備された場所にとどまりながら、体全体の働きにあずかるのです。

そして、聖パウロが「他のすべてに先立つ」と言った賜物、すなわち「愛」を持つことは、何よりも大切です。出会う人皆を愛すること、地上に生きるすべての人を愛することです。

この愛、そして相互の愛により、多くの部分が、一つの体になれるのです。

キアラ・ルービック

\* フォコラーレの創立者キアラ・ルービックは、初期の頃から「いのちの言葉」に解説をつけてきました。今年3月14日の彼女の帰天後は、キアラが過去に残した解説を取り上げます。今月のいのちの言葉は、1981年1月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先

フォコラーレ : 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail : [tokyofocfem@ybb.ne.jp](mailto:tokyofocfem@ybb.ne.jp)

ホームページ :

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>



池水に重く浮かべる捨舟にせきれいの来て舳か  
がやけり

よごれたる猫が日向に顎のべて水面を奔る鴨を  
見てをり

竹むらにささの落葉を白くつむ日だまりありて  
水仙の咲く

故・クララ 密本 延枝 さまの歌集「オルゴール」より



# カルメル会の企画案内







## カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：闇に光を

—現代社会に芽生える新しい神との出会い—

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分）

世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会（Tel 03-3704-2171）

日時：下記の各日曜日 午後二時半開始 入場無料（講話の後、主日のミサ）

3月1日（日） 大瀬高司（カルメル修道会司祭）

「教会二千年余の歴史を鑑み

個々の人間と社会に本質と本来指向を啓いてきた教会」

3月8日（日） 渡辺幹夫（カルメル修道会司祭）

第二ヴァチカン公会議「厚い黒雲の中にも、時のしるしを読み取る」

3月15日（日） 堤 邑江（カルメル在俗者会員）

「家庭と若者、生活問題の中での神との出会い」

3月22日（日） 中川博道（カルメル修道会司祭）

「わたしはこの目であなたの救いを見たからです

——高齢期を生きる光を探して——」

3月29日（日） チェレスティーノ・カヴァーニャ（東京教区司祭）

「日本の教会の新しさ」

上野毛霊性センター '09年2月~'10年3月

黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院(黙想) \*\*

1. 一泊聖書深読(毎回土曜日 夕食~日曜日16時) 大瀬高司神父

- ① ~~‘08/11月29日~30日~~
- ② ~~‘09/ 1月24日~25日~~
- ③ 5月16日~17日
- ④ 7月25日~26日
- ⑤ 9月 5日~ 6日
- ⑥ 11月28日~29日
- ⑦ 2010/ 1月23日~24日

2. 奉獻生活者のための黙想会

- A 8月10日(月) 夕食~ 8月19日(水) 朝 中川博道神父
- B 8月22日(土) 夕食~ 8月31日(月) 朝 松田浩一神父
- C 11月 9日(月) 夕食~11月18日(水) 朝 松田浩一神父
- D 12月26日(土) 夕食~ '10/1月4日(月) 朝 中川博道神父

3. 木曜黙想会 一般黙想(毎回木曜日10時~16時)

年間共通テーマ《祈りを深める》

- |             |             |        |
|-------------|-------------|--------|
| 3月12日       | 共に苦しむ神      | 中川博道神父 |
| 5月28日       | キリスト者の日々の祈り | 松田浩一神父 |
| 7月 9日       | イエスは祈られた    | 中川博道神父 |
| 9月10日       | 苦しみの中の祈り    | 今泉 健神父 |
| 11月26日      | ミサの祈り       | 今泉 健神父 |
| 2010/ 1月28日 | 主の祈り        | 松田浩一神父 |

## 4. 金曜黙想会 カルメルの聖人（毎回金曜日 10時～16時）

2月13日	聖ヨゼフ	ベルナルド神父
4月17日	御復活のラウレンシオ	中川博道神父
6月19日	カルメル会の聖人達とイエスのみ心	松田浩一神父
10月 9日	アビラの聖テレジア	今泉健神父
12月11日	十字架の聖ヨハネ	ベルナルド神父
2010/2月12日	聖エリア	中川博道神父

## 5. 一般黙想会（毎回土曜日 夕食～日曜日16時）

2月7日～8日 中川博道神父

## 6. 「社会人のための心の休息」一日常のキリスト教霊性を求めて一

（毎回金曜日 20時～ 土曜日 15時） 新しい企画

中川博道神父・松田浩一神父

- ① 4月17日（金）～18日（土）
- ② 5月 8日（金）～ 9日（土）
- ③ 6月19日（金）～20日（土）
- ④ 9月11日（金）～12日（土）
- ⑤ 10月23日（金）～24日（土）
- ⑥ 11月 6日（金）～ 7日（土）
- ⑦ 2010/ 1月29日（金）～30日（土）
- ⑧ 2月26日（金）～27日（土）

尚、この企画は社会人（働いている人）の霊的・心的回復と修養を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に申し込んでください。

## 7. 青年黙想会（男女） 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

5月29日（金）～31日（日） 17時受付

11月21日（土）～23日（月） 16時受付

## 8. 召命黙想会（男女） 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

7月4日（土）～ 5日（日） 15時受付

9.大祭日のミサに与かるために

【聖週間を祈る】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。

‘09 4月9日(木)～12日(日) 《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

‘09 12月24日(木)～25日(金)《講話なし、夕食なし》

10.特別黙想会 伊従信子NDV

5月22日(金)20時～24日(日)16時(22日は夕食を済ませてご参加ください)

テーマ:「聖霊を友に」

10月10日(土)20時～12日(月)16時(10日は夕食を済ませてご参加ください)

テーマ:「さらに固く信じさせてください」

11.待降節黙想会

‘09/12月4日(金)20時～6日(日)16時(4日は夕食を済ませてご参加ください)

指導:カルメル会士

12.四旬節黙想会

3月6日(金)20時～8日(日)16時(6日は夕食を済ませてご参加ください)

指導:今泉健神父

13.「カルメルの靈性に親しむ」黙想会 中川博道神父

3月19日(木)夕食～21日(土)

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。  
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんの  
でなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



# 「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

\* どなたでも いつからでもご参加ください \*

## 2009年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30～12:00》

《19:15～20:45》

了 1月20日	了 1月23日
2月17日	2月20日
3月17日	黙想会の為、3月の勉強会はございません 下記の案内をご覧ください
4月21日	4月24日
5月19日	5月22日
6月23日	6月26日
7月21日	7月24日

黙想会 日時:3月19日(木)20時(ミサ)～3月21日(土)17時

対象:どなたでも 参加費用:12,000円

お申込みは 聖テレジア修道院(黙想)まで TEL 03-5706-7355 FAX03-3704-1764

<お問い合わせ : carmel-reisei@hotmail.co.jp>

# C.Y.C. (カルメル・ユース・クラブ)

## 若者の集い

カルメルの霊性 (スピリチュアリティ) の中で  
祈りと分かち合いのひと時をすごしてみませんか…

日 時 : 2009年 2月14日 (土)、2月28日 (土)  
3月14日 (土)、3月28日 (土)

午後7時 ~ 9時15分 (9時からカルメル会士とともに「寝る前の祈り」)

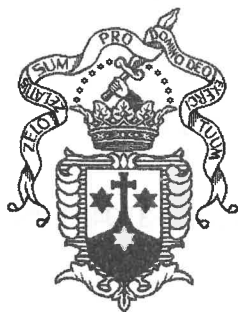
対 象 : 35歳までの 青年男女

内 容 : 「聖書」「カルメルの聖人の著作」等の分かち合い、祈り。

場 所 : 上野毛教会 信徒会館ホール 東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩7分  
(世田谷区上野毛2-14-25)

※参加の申込みは不要です。お問合せに関しましては、下記までお願いいたします。

※カルメル会の各種ご案内は、ホームページにて。 <http://www4.ocn.ne.jp/~carmel/>



男子跣足カルメル修道会 上野毛修道院 (松田浩一神父)

158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

[E-mail] [tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

[Fax] 03-3704-1764 [Tel] 03-3704-2171

\*\*宇治聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

1. 聖書深読

一泊二日 (午後5時～午後4時)

3月21日 (土) ~ 22日 (日)	渡辺幹夫神父
5月 9日 (土) ~ 10日 (日)	新井延和神父
7月 4日 (土) ~ 5日 (日)	九里彰神父
9月 5日 (土) ~ 6日 (日)	新井延和神父
11月14日 (土) ~ 15日 (日)	中川博道神父

1日 (午前10時から午後4時)

2月21日 (土)	新井延和神父
4月18日 (土)	渡辺幹夫神父
6月13日 (土)	新井延和神父
10月31日 (土)	九里彰神父
12月12日 (土)	新井延和神父

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

2月18日 聖ヨセフ	ベルナルド神父
3月11日 赦しの秘跡	新井延和神父
4月22日 復活	渡辺幹夫神父
5月27日 聖霊	長岡幸一神父
6月30日 聖パウロ宣教師	九里彰神父
7月15日 カルメル山の聖母マリア	九里彰神父
9月23日 十字架の神秘	新井延和神父
10月14日 完徳の道	渡辺幹夫神父
11月 4日 聖なる冒険	Sr.パウリン
12月 9日 暗夜	九里彰神父

3. 四旬節黙想 (午後5時～午後4時)

3月7日 (土) ~ 3月8日 (日)	九里彰神父
---------------------	-------

4. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

12月5日 (土) ~ 6日 (日)	九里彰神父
--------------------	-------

5.聖テレーズの黙想（午後5時～午後4時）

9月30日（水）～10月1日（木） 伊従信子師

6.一般のための黙想（午後5時～午前9時） ※修道者も参加可

4月29日（水）～ 5月2日（土） 渡辺幹夫神父

7.召命黙想会（午後4時～午後5時）対象：40歳以下の青年男女

5月5日（火）～ 5月6日（水） 渡辺幹夫神父

8.奉獻生活者のための黙想（午後5時～午前9時）

8月 2日（日）～8月11日（火） 渡辺幹夫神父

8月18日（火）～8月27日（木） 九里彰神父

10月17日（土）～10月26日（月） 九里彰神父

12月26日（土）～1月4日（月） 新井延和神父

9.青年のための黙想会・男女（午前10時～午後5時）

11月8日（日） 九里彰神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

\*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間をお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457



# 「立ちどまって、ひとりになって、感じてみよう！」

## ～都会の中の一日静修～（2009）

この会は、現代の忙しい社会の中であって、また都会の中であって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ28：20)と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいはいかがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、『闇に輝く希望の光』としました。このテーマを通して、“生きる負担、不安、苦しみ、病、老い、死の恐れ、悩み、痛み”などなど一見“ネガティブ”（闇）と思われる出来事の中にも、主と出会う道筋が隠され、希望の光を静かに放っているはずです。この闇と思われる現実をもう一度眺め直し、希望のうちに生きていくヒントを探し求めて、一日静修において黙想し、祈りを深める事ができたらと願っています。

第1回	1月31日(土)	イエス・キリストの辛い宣言	松田浩一神父 (上野毛修道院)
第2回	2月21日(土)	私は弱いときにこそ強いー弱さの中の光～	中川博道神父 (上野毛修道院)
第3回	3月28日(土)	暗夜における信仰・希望・愛 十字架の聖ヨハネ	九里彰神父 (宇治修道院)
第4回	4月18日(土)	喜びを生きる	新井延和神父 (宇治修道院)
第5回	5月23日(土)	聖霊に満たされて生きる	今泉健神父 (上野毛修道院)
第6回	6月20日(土)	苦しみの中における喜びと平安 三位一体のエリザベット	九里彰神父 (宇治修道院)
第7回	7月11日(土)	苦しみの中の祈り	今泉健神父 (上野毛修道院)
第8回	9月21日(月) 祝	幼いイエスの聖テレーズの悲しみ	新井延和神父 (宇治修道院)
第9回	10月17日(土)	アヴィラの聖テレシアの霊性からの自由と希望	Sr.バートルス(宣教カルメル修院)
第10回	11月28日(土)	暗夜に輝く神のみ言葉：患まれた方、聖マリア	松田浩一神父 (上野毛修道院)

- \* 時間 AM10:00～PM4:00
- \* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) \*聖テレシア幼稚園隣接
- \* 参加費 1,000円
- \* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- \* 定員 約30名
- \* プログラム
  - 10:00～ 祈り・導入・黙想
  - 10:40～ 講話【1】
  - 12:00～ 昼食
  - 13:00～ 赦しの秘跡または短い面接
  - 13:30～ 講話【2】
  - 14:45～ ミサ
  - 15:30～ 茶話会
  - 16:00 終了

申し込みは、下記の住所へレガキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX052-671-1825  
 一日静修係 〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子 TEL052-701-3685

2009年度名古屋聖書深読会

第1回 5月16日(土) 日比野カトリック教会 新井延和神父

第2回 10月 3日(土) 日比野カトリック教会 新井延和神父

\* 参加費 ￥1000

\* 持ち物 聖書・ノート・筆記具・昼食等

\* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

\* 原則として、定員は21名とし、申し込みは、1週間前にFaxまたはハガキでお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

\* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキまたはFAXで、お願いします。

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX052-671-1825

または

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は16,900円

講師：丸里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527（直通）

### 2 ミニ深読

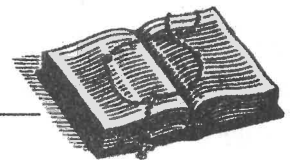
グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

## カルメル会出版物のご案内

### 雑誌「カルメル」NO330 (2008年秋号)「今日の靈性」

- 聖霊の光のもとに —教父たちの教えと生き方 (11) …高橋正行  
マリアの旅 (1) —マリアと共に聴く …中川博道  
十字架のヨハネ講話 (12) …フェデリコ・ルイス  
今日の歌 (1) …ペトロ・アロイジオ  
エリザベットの「魂のこだま」、ギット (7) …伊従信子  
エディット・シュタイン「カルメル会への道程」  
—ケルン・カルメル会に入ったいきさつ (2) …須沢かおり  
「小さい道」の巡礼者 (2)  
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山真里  
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (22) …伊従信子  
ひとつの村が消える …森みさ  
愛の断章 (9) …奥村一郎

### 雑誌「カルメル」NO331 (2008年冬号)「今日の靈性」

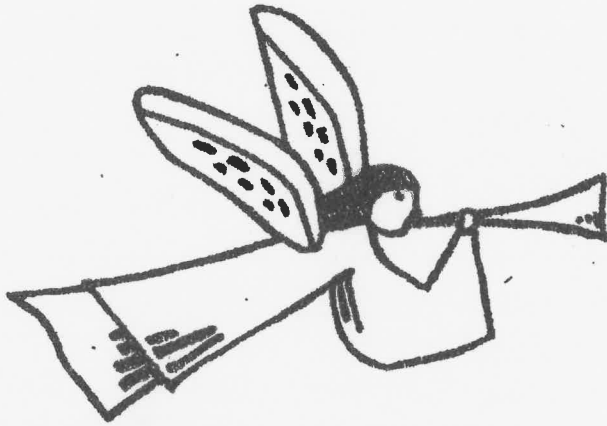
- 聖霊の光のもとに —教父たちの教えと生き方 (12) …高橋正行  
マリアの旅 (2) —マリアと共に聴く …中川博道  
十字架のヨハネ講話 (13) …フェデリコ・ルイス  
今日の歌 (2) …ペトロ・アロイジオ  
エリザベットの「魂のこだま」、ギット (8) …伊従信子  
エディット・シュタイン「カルメル会への道程」  
—ケルン・カルメル会に入ったいきさつ (3) …須沢かおり  
「小さい道」の巡礼者 (3)  
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山真里  
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (23) …伊従信子  
現代に生きる「預言者」のころ …谷口正子  
愛の断章 (10) …奥村一郎

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費 (年5冊:春夏秋冬号+特集号、送料込み) として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替: 00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL (03) 5706-8356)

# 諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバーキリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会



## 内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターにお問い合わせ下さい。電話では取次いでおりません。

申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」

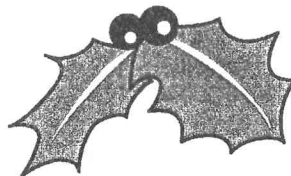
藤原神父 FAX 072・802・5026

<http://www.com-unity.co.jp/naikan>

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

### ★ 2009年度 ★

了 P1	09・01・10 (土) 2時から	01・16 (金) 2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K1	09・01・28 (水) 2時から	02・03 (火) 2時まで	東京・小金井・聖霊会
Y1	09・02・18 (水) 2時から	02・24 (火) 2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
K2	09・03・04 (水) 2時から	03・10 (火) 2時まで	東京・小金井・聖霊会
P2	09・03・21 (土) 2時から	03・27 (金) 2時から	兵庫・売布・女子ご受難会
F1	09・04・25 (土) 2時から	05・01 (金) 2時まで	福岡・御受難会黙想の家
I1	09・05・08 (金) 2時から	05・14 (木) 10時まで	沖縄伊江島・土の宿
M1	09・05・22 (金) 2時から	05・28 (木) 2時まで	盛岡・白百合
K3	09・06・08 (月) 2時から	06・14 (日) 2時まで	東京・小金井・聖霊会
N1	09・06・24 (水) 2時から	06・30 (火) 2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
F2	09・07・10 (金) 2時から	07・16 (木) 2時まで	福岡・御受難会黙想の家
Y2	09・07・22 (水) 2時から	07・28 (火) 2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
O1	09・08・23 (日) 2時から	08・29 (土) 2時まで	長野・大鹿村・草々庵
P3	09・09・12 (土) 2時から	09・18 (金) 2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
Y3	09・10・07 (水) 2時から	10・13 (火) 2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
K4	09・10・21 (水) 2時から	10・27 (火) 2時まで	東京・小金井・聖霊会
N2	09・11・02 (月) 2時から	11・08 (日) 2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
F3	09・11・16 (月) 2時から	11・22 (日) 2時まで	福岡・御受難会黙想の家
P4	09・11・28 (土) 2時から	12・04 (金) 2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K5	09・12・09 (水) 2時から	12・15 (火) 2時まで	東京・小金井・聖霊会



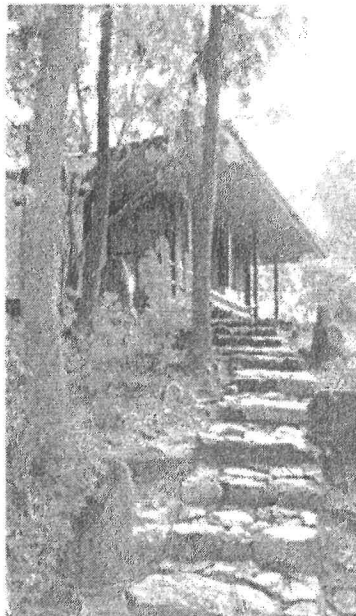
# 2009年度祈りの集いのご案内

## 聖パウロの年

通年のテーマ：

聖パウロについて レクツィオ ディヴィーナ

祈りの集い（毎回午前10時～午後2時半）



- 了
- 1月 8日 聖パウロの改心（使徒言行録9:1...）
  - 2月 12日 聖パウロの宣教派遣（使徒言行録13:1...）
  - 3月 12日 聖パウロの宣教における苦難（2コリント4:7...）
  - 4月 23日 聖パウロのアテネにおける宣教（使徒言行録17:16...）
  - 5月 14日 聖パウロのコリントにおける宣教（使徒言行録18:1...）
  - 6月 11日 聖パウロの旅
  - 7月 9日 キリストの使徒であるパウロ
  - 9月 10日 聖パウロの書簡 1
  - 10月 8日 聖パウロの書簡 2
  - 11月 19日 聖パウロの逮捕（使徒言行録21:27...）
  - 12月 10日 聖パウロの殉教

指導者：フランコ・ソットコルノラ神父（真命山院長）

園田 善昭神父

ダニエレ サルツィ・サルトリ神父

マリア デ・ジョウルジ シスター

申し込み先

〒 865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。（要予約）



## ●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

## ●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

## ●聖書研究会

木曜日 12時45分～13時25分 上智大学7号館316号研究室 学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで勉強します。

## ●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分 木曜日 18時～20時30分  
上智大学内 Kultourハイム1階左の部屋。祝日を除く。3回坐り、間に講話があります。どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可

## ●接心

2月21日(土) 8時30分～22日(日)15時30分  
上石神井 5400円程度。

## ●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂  
どなたでも。(祝日は休み)

## ●祈りの集い

右記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内 SJハウス第5会議室  
黙想、講話、ミサがあります。2月7日、3月14日  
ロザリオの祈り 同日16時10分～50分 Kultourハイム1階右小聖堂

## ●黙想会

1月31日(土)10時～2月1日(日)15時 上石神井 1泊5400円～5600円程度

## ●黙想

「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時  
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。祝日休。  
水曜日 18時～18時30分 上智大学内  
Kultourハイム1階右小聖堂、どなたでも (祝日は休み)

## 問い合わせ・連絡先

クラウド・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)  
102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J. ハウス  
電話 03-3238-5124[直通]、5111[伝言]、FAX 03-3238-5056

## リーゼンフーバー神父キリスト教入門講座 2008年～2009年

日 時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

### 各回のテーマ

- 1/30 “神の言葉—神との日常的な対話と黙想の仕方
- 1/31—2/1 黙想会
- 2/6 結婚と独身—愛の道
- 2/13 仕事という人間の課題—社会と教会に寄与して働く
- 2/20 世界の聖化—他宗派・他宗教・社会の中で働く恵み
- 2/27 人間の苦悩—悪とは何のためか

## リーゼンフーバー神父キリスト教理解講座 2008年～2009年

日 時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

### 各回のテーマ

- 1/31—2/1 黙想会
- 2/3 御子の受肉—神の子と人の子
- 2/17 「教会」 信仰者の共同体—教会の本質
- 3/3 教会の構造—その起源と機能
- 3/17 信仰者の原型—聖書に見られるイエスの母
- 3/31 「展望」 人間と世界の完成—終末の約束

#### 《場所・お問い合わせ》

場 所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール  
電 話 03-3263-4584

# いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を  
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、  
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2009年1月31日(土)

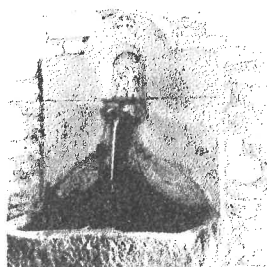
講話 伊従信子 ・ 片山はるひ

\* 次回の予定 2009年2月21日(土) \*  
3月21日(土)

午後2時 ～ 午後5時30分位まで

講話・祈り・分かち合い

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、  
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、  
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

## ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

### A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- 了 ① 08年12月27日(土)～09年1月4日(日)  
② 09年2月20日(金)～2月28日(土)  
③ 7月23日(木)～7月31日(金)  
④ 9月1日(火)～9月9日(水)  
⑤ 10月17日(土)～10月25日(日)  
⑥ 12月27日(日)～10年1月4日(月)

### B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- 了 ⑦ 1月16日(金)～1月18日(日)  
⑧ 2月6日(金)～2月8日(日)  
⑨ 2月20日(金)～2月22日(日)  
⑩ 4月3日(金)～4月5日(日)  
⑪ 4月24日(金)～4月26日(日)  
⑫ 5月8日(金)～5月10日(日)  
⑬ 6月12日(金)～6月14日(日)  
⑭ 6月26日(金)～6月28日(日)  
⑮ 10月2日(金)～10月4日(日)  
⑯ 10月23日(金)～10月25日(日)  
⑰ 11月6日(金)～11月8日(日)

⑱ 12月 4日(金)～12月 6日(日)

⑲ 12月 11日(金)～12月 13日(日)

この期間、黙想会が行われている場合があります。

C. 研修と祈り：【自己の成長と祈りへの道】

(20) 5月 19日(火)～5月 24日(日)

(21) 9月 29日(火)～10月 4日(日)

この期間、個人黙想をなさりたい方は、ご相談ください。

D. 講話 黙想

(22) 5月 27日(水)～6月 3日(水) 九里 彰 師 (カメル会)

◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： トニー・ブロードニヤック (メノール宣教師) 安井 昌子 (ノートルダム教育修道女)  
菊池 陽子 (ノートルダム教育修道女) 松本 佳子 (ノートルダム教育修道女)

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」安井昌子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順15名です。

◎ その他： 受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。  
問い合わせは、電話 または、E-メールを ご利用ください。



食堂より琵琶湖を望む

# 奥村一郎

## 全9巻 選集

四六判・上製・平均240頁 各巻定価 2,100円  
オリエンス宗教研究所

深い信仰と豊かな靈性、  
透徹した知性が織り成す  
奥村神学の全貌

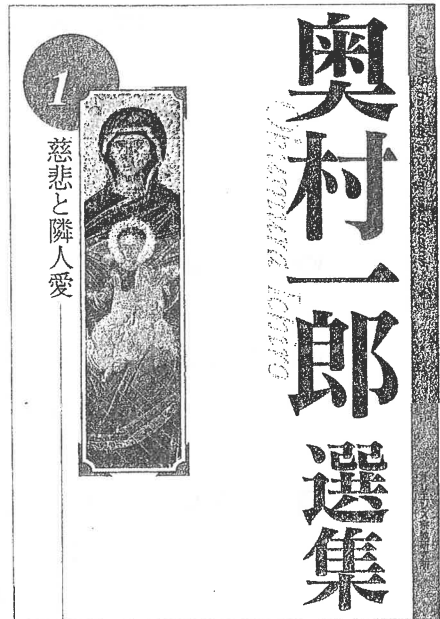
祈りと思案の日々はときに私を新たな地平へと導く。カトリック修道者となつてなお続く禪との関わりや宗教対話の積み重ねが、やがて「関係の神学」として結実したことはその一つである。自己形成や修徳主義を基軸とする「個の靈性」の行き詰まりの中で、福音の原点である相互愛に基づく「関係の靈性」は日本文化とキリスト教など、その後の私の問題関心を深めてくれた。

—著者による「刊行にあたって」より



奥村一郎 ● カルメル会司祭

1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。



### 〔全9巻の主な内容〕

第1巻 慈悲と隣人愛 (解説) 西村恵信 刊行済  
カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における靈的修行

第2巻 多文化に生きる宗教 (解説) 橋本裕明  
大いなる賭——宗教対話／遠藤周作さんを偲ぶ

第3巻 日本の神学を求めて (解説) 小野寺 功 刊行済  
日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」

第4巻 日本語とキリスト教 (解説) 阿部仲麻呂  
日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ 刊行済

第5巻 現代人と宗教 (解説) 鶴岡賀雄  
現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／全人教育と真人教育

第6巻 永遠のいのち (解説) 八木誠一 刊行済  
嬰兒復帰／人間の栄光と悲惨／信仰と苦しみ／十字架の秘義

第7巻 カルメルの靈性 (解説) 高園泰子 刊行済  
アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレズと東洋的靈性

第8巻 神に向かう祈り (解説) 高橋重幸 刊行済  
考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者

第9巻 奉獻の道 (解説) 宮本久雄 刊行済  
清らかな矛盾／修道と世俗／清貧の誓願／現代に生きる修道者の靈性

順次刊行中 2008年6月完結予定

刊行済

# リジューの聖テレーズ布教事業の保護者宣言80周年

## 記念御絵



\* ご絵は、カルメル会上野毛修道院で取り扱っています。

- A. 6cm×10.5cm (¥30)
- B. ハガキ (¥100)
- C. 25.5cm×30.5cm (¥300)

上記の3種類のサイズがあります。ご希望の方は、FAXにてサイズ別の枚数をご記入の上、お申込み下さい。

FAX: 03-3704-1764

## 投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

### 》投稿規程《

- \* 締切り：原則的に毎月10まで
- \* 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- \* 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- \* E-mailでの投稿は、添付ファイルで、[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)宛にお願いいたします。
- \* 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- \* 「諸所の企画」のコーナーについては、
  - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
  - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
  - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
  - ④ 連絡先等。
- \* 寄稿連絡は、<sup>くのり</sup>九里 彰神父宛にお願いいたします。住所が変わります！  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会修道院  
Tel(0774)32-7456 Fax(0774)32-7457

「カルメル霊性センター」のホームページ

**YAHOOで「カルメル霊性センター」を検索してください！**

ホームページのアドレスは以下の通りです。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>



## 『靈性センターニュース』 郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切下では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」



### 編集後記

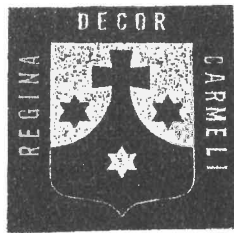
1月20日正午（日本時間21日午前2時）、バラク・オバマ氏が、第44代アメリカ合衆国大統領に就任した。アフリカ系黒人が初の大統領になったことにより、アメリカの民主主義の歴史に新しい一ページが開かれたことに間違いはない。全米ばかりでなく、全世界から脚光を浴び、そのリーダーシップに期待がかけられている。就任式に参加した一人は、「オバマ大統領は賢く、才気にあふれているが、ただの一人の男だ。私たちは彼を信頼し、彼について行く。彼の力は国民とともにある」と語っている。

確かに彼は「ただの一人の男」にすぎない。期待とは裏腹の結果に終わるかもしれない。しかし、この就任式に200万を超す大群衆が集まった。彼の背後には三億のアメリカ国民がいる。少なくともこの時点では、彼は全国民を一つにしたと言える。

とはいえ、アメリカ一国だけでなく、国家や人種を越えて、人々を一つにすることは、政治的経済的レベル、単なる人間的地平では不可能だろう。必ず意見の対立、利害をめぐって争いが生じてくる。キリストの祈りが聞こえてくる。

父よ、あなたが私の内におられ、私があなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。……私たちが一つであるように、彼らも一つになるためです。（ヨハ17：21～22）

（P. 九里）



## あなたにもできる

「霊性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことが出来ます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「3月号」製本日      2月24日（火）      上野毛教会信徒会館ホール1階  
午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認ください。      霊性センター係  
TEL 03・3704・2171